

真のグローバル・メドテックカンパニーに向けた歩み

真のグローバル・メドテックカンパニーに向けた歩み

オリンパスは2019年1月に企業変革プラン「Transform Olympus」、2019年11月にはグローバル・メドテックカンパニーと同水準となる調整後営業利益率*1 20%超を2023年3月期に達成することを目標にした経営戦略を発表し、真のグローバル・メドテックカンパニーに向けた変革を進めてきました。売上成長に加え、コスト削減および資本効率改善への取り組みを着実に進めたことにより、2023年3月期の調整後営業利益率は20%を達成しています。

FY 2020 (実績) >>

調整後
営業利益率

13.5%

取り組み・重点施策

- 販管費の大幅な効率化の実現 (2019年3月期比325億円削減(7%減))
- 全社横断的な企業変革プラン「Transform Olympus」の着実な進捗
- 取締役のダイバーシティ化と指名委員会等設置会社への移行により、多角的視点の経営と経営スピードの向上
- 内視鏡事業における次世代消化器内視鏡システムの発売に向けた開発の推進
- 治療機器事業の事業基盤構築、優先分野へのリソースの投入
- グローバルグループ一体経営を目指し、執行体制を強化
- グローバルレベルでの適所適材配置を可能とするグローバル人事制度を導入
- オリンパスグループにおける国籍・年齢・性別を問わない人材登用・配置、および幅広い経験・知見・能力を持った社外人材の採用を積極的に実施

参考指標(実績)*2

| | |
|---------|--------|
| 調整後FCF | 711億円 |
| 調整後ROIC | 10.7% |
| 調整後EPS | 45.49円 |

FY 2021 (実績) >>

調整後
営業利益率

14.1%

取り組み・重点施策

- 全社横断的な企業変革プラン「Transform Olympus」の着実な進捗
- 事業の持続的成長と持続可能な社会の実現に向けたマテリアリティを策定
- 日本産業パートナーズ株式会社への映像事業の譲渡が2021年1月に完了
- 約8年ぶりに消化器内視鏡の新システム「EVIS X1」を欧州、日本、アジア一部地域で販売開始
- 医療分野の成長を加速する複数のM&Aを実施 (消化器科: Arc Medical Design社、整形外科: FH ORTHO社、外科: Quest Photonic Devices社など)
- 製品開発体制の再編 (さらに安全性と有効性の高い製品を開発するため、品質・技術開発・製造など各専門機能が初期段階から横断的に連携を強化する体制の実現)
- 日本で社外転進支援制度を実施

参考指標(実績)*2

| | |
|-----------|-----------------|
| 調整後FCF成長率 | +11.6% (794億円) |
| 調整後ROIC | 10.3% |
| 調整後EPS成長率 | +37.2% (62.42円) |

FY 2022 (実績) >>

調整後
営業利益率

19.3%

取り組み・重点施策

- 全社横断的な企業変革プラン「Transform Olympus」の取り組みをトップダウンとボトムアップの両輪で推し進め、企業変革の文化を醸成
- サステナブルな社会に資するESGへの取り組みの強化 (「Dow Jones Sustainability World Index (DJSI World)」に選定)
- 科学事業の分社化を正式決定し、分社化に向けた取り組みを加速(当社の子会社で科学事業を行う株式会社エビデントを、第三者に譲渡することを2022年8月に決定)
- 消化器内視鏡システム「EVIS X1」の発売済み市場での拡販
- コーポレート・ベンチャー・キャピタル・ファンド「Olympus Innovation Ventures」の設立
- 医療分野における戦略的な方針を策定 (OLYMPUS Investor Day 2021)
- さらに安全性と有効性の高い製品を開発するため、品質・技術開発・製造など各専門機能が初期段階から横断的に連携を強化する体制の実現

参考指標(実績)*2

| | |
|-----------|------------------|
| 調整後FCF成長率 | +35.9% (1,313億円) |
| 調整後ROIC | 17.1% |
| 調整後EPS成長率 | +46.6% (97.73円) |

FY 2023 (実績) >>

調整後
営業利益率

20.0%

売上高
CAGR*3

4.6%

取り組み・重点施策

- 環境変化やあらゆるリスクに柔軟かつタイムリーに対応できるよう組織力をさらに強化
- 消化器内視鏡システム「EVIS X1」の発売済み市場における継続的な拡販および米国や中国など今後発売を予定している市場での投入準備
- 外科手術用内視鏡システム「VISERA ELITE III」を欧州、日本、アジア一部地域で販売開始
- 当社コア・コンピテンスのさらなる強化およびポートフォリオの拡充を目的に、複数のM&Aを検討・実施(消化器科: Odin Vision社、消化器科処置具: Taewoong Medical社*1)
- (FY2024) Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行う投資ファンドが間接的に株式を保有する特別目的会社への株式会社エビデントの譲渡が2023年4月に完了

参考指標(実績)*2

| | |
|-----------|------------------|
| 調整後FCF成長率 | +6.2% (853億円) |
| 調整後ROIC | 18.4% |
| 調整後EPS成長率 | +35.8% (113.86円) |

2019年の経営戦略における財務ガイダンスおよび参考指標*2

2023年3月期
目標水準

| | | |
|---------|-----------|---------|
| 財務ガイダンス | 調整後営業利益率 | > 20% |
| 参考指標 | 調整後FCF成長率 | > 20%*4 |
| | 調整後ROIC | > 20% |
| | 調整後EPS成長率 | > 25%*4 |

新経営戦略を発表(2023年5月)

詳しくはP.36へ

*1 Taewoong Medical社の買収のクローリングは未定

*2 各指標において、以下の項目を調整。M&Aは、2020年3月期以降(2019年に発表した経営戦略以降)に係るものとする

・調整後営業利益/ EPS: 営業利益から、「その他の収益・その他の費用」を差し引く。為替変動の影響については調整を行わず、実績の為替レートをを用いる

・調整後ROIC: 税引後営業利益(税率: 日本の法定実効税率約30%を使用)から、「その他の収益・その他の費用」、「M&Aに関連する無形固定資産の償却費」を差し引く。Working capitalから、「M&A関連資産(M&Aに関連するのれん・無形資産)」を差し引く。為替変動の影響については調整を行わず、実績の為替レートをを用いる

・調整後FCF: 「その他の収益・その他の費用のうちキャッシュイン、アウトしたもの」、「M&A関連支出」、「構造改革関連支出」を差し引く。為替変動の影響については調整を行わず、実績の為替レートをを用いる

*3 2020年3月期を起点とした3年間における為替影響調整後の継続事業ベースのCAGR

*4 2020年3月期を起点とした3年間のCAGR